学校番号	3009

令和８年度　工業科（建築系）

教科	工業科（建築系）	科目	建築製図	単位数	１単位	年次	１年次（後期）
使用教科書	『建築設計製図』（実教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

線の種類、太さの表現は建築製図において大きな意味を持ちます。均一で正確な線を描けるように練習しましょう。はじめての建築製図課題となる木造平屋建ての構造は、最も基本的な構造形式です。建築基礎の軸組模型と合わせて立体的に考える力を付け、各種設計図（平面図、立面図、断面図）の意味と、描き方の手順を覚えましょう。また、建築構造や建築構造設計とも密接な関係があるので、構造の特性について十分に理解しておきましょう。

2　学習の到達目標

(a)各線の種類と使用される目的を理解し、それを的確に作図する知識と技術を身に付ける。
(b)各種図面の種類とその縮尺との関係を理解する。ＪＩＳ製図通則の平面表示記号で表現できる判断力と表現力を身に付ける。
(c)各課題における改善と技術向上に主体的に取り組む態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	建築製図に関する基本的な技術を身に付け、合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	建築製図に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	建築製図に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取組み、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	線の練習	線の種類(実線・破線・点線・一点鎖線・二点鎖線)と線の太さ(極太線・太線・中線・細線)の正確な描き方と、建築製図に使われる用途を理解する。 平湖定規、勾配定規の使い方と意味を理解し、適切に使用できるようにする。	a: 線の種類と太さに関する基本的な技術を身に付け、合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 b: 適切な製図道具を使用して基礎的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 c: 製図に関する課題について関心をもち、技術の改善・向上をめざして主体的に取り組む態度を身に付けている。	授業観察 提出課題	授業観察 提出課題	授業観察 提出課題
	木造平屋建て住宅の設計製図	1. 木構造の設計 1)木構造の設計手順 2)木構造の基礎知識 2. 木造平屋建て住宅の製図 1)配置図・平面図 2)立面図・断面図	a: 木構造に関する基本的な知識を身に付け、設計手順を合理的に計画し、適切に活用している。 b: 図面の種類とその縮尺、部材の組立・接合の方法と表現、仕上材の取り付け方について思考・判断し、適切な図面表現に意欲的に取り組む行動力を身に付けている。 c: 建築製図に関する課題について関心をもち、技術の改善・向上をめざして主体的に取り組む態度を身に付けている。	授業観察 提出課題	授業観察 提出課題	授業観察 提出課題

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度